

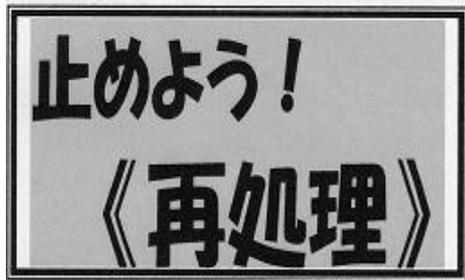
三陸の海を放射能から守る
岩手の会

ミニコミ通信 第18号

ホームページ (「通信」バックナンバー掲載中)

(岩手の環境 / RI廃棄物 / 再処理)

郵便振替 02240 - 5 - 102650



2006(平成18)年

4月18日

編集事務局 S.Oshida

電話・ファックス

019-623-1636

再処理工場、試運転早々に事故

猛毒プルトニウムを多量に含んだ洗浄水、漏えい

人身事故につながらないうちに

再処理運転をやめよ

事故の顛末を公表せよ

「三陸の海を放射能から守る岩手の会」

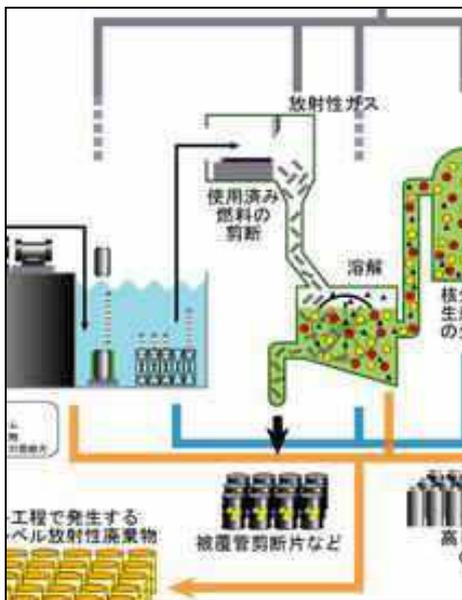
「豊かな三陸の海を守る会」など各地から抗議の声

四月十一日未明、多くの反対を無視して試運転開始したばかりの六ヶ所再処理工場で、放射能を含んだ洗浄水40リットルが処理工程から漏れる事故が発生しました。核燃料棒をせん断・溶解する前処理建屋で起き、ウラン260グラムプルトニウム1グラムなどを含んでいます。幸い建屋内の漏えい受け皿で止まった模様ですが、一部、排気筒から漏れた疑いもあり、状況の詳しい説明が求められます。

五月十二日期限内で
回答を求める

「岩手の会」と「守る会」は十四日、日本原燃(株)、青森県、六

ヶ所村、原子力安全・保安院、原子力安全委員会へ抗議文を送致し、運転中止と事故の詳しい報告を求めました。また、「岩手の会」代



表二人は十八日、青森の市民運動代表三人とともに六ヶ所再処理工場を訪れ、「事故に関する質問書」を手渡し、五月十二日まで回答するよう申し入れました。

漏れた洗浄水には多量の猛毒プルトニウム

誤操作によって漏れた洗浄水に含まれる放射線量は、日本原燃の公表では次の通り。

全アルファ：約41×10の5乗ベクレル/ミリリットル
全ガンマ：約3

1×10の6乗ベクレル/ミリリットル
ウラン：約65グラム/リットル
プルトニウム：約0.025グラム/リットル

これを漏れた四〇リットル全量に換算すると、全アルファ核種164億ベクレル、全ガンマ核種1240億ベクレルで、ウラン260グラム、プルトニウム1グラムを含むことがわかりました。プルトニウムは1グラムで100万人を発ガンさせる量です。ちなみに、六ヶ所工場の通常運転での一年間の放出量と予告していた三八億ベクレルの四倍以上の放射線量です。

この放射能が本当に建屋外に漏れなかったのか、事故の状況の詳しい説明が求められます。

人為ミスではすまされない構造的欠陥

今回の事故は、「作業員が、遠隔手動操作で、間違っているバルブを抜いたため、洗浄水が漏れた」と発表されていますが、何故、こんなにも多量の放射能を含む洗浄水の移送を手動で操作する設備なのか、大きな疑問が湧きます。人

為ミスを完全になくす事は出来ません。人が操作するしか方法が無く、安全のための技術的な困難を克服出来ない設備であるとしたら、それは工場のもつ構造的欠陥です。試運転は即時中止し、根本的見直しを図るべきです。

漏れた洗浄水はどのように回収出来たのか

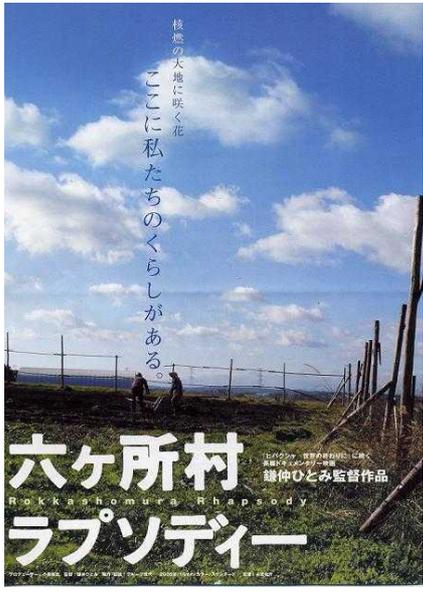
日本原燃は「主排気筒モニターに変動がなかった」と発表していますが、ホームページの画面では数値の目盛りが大きすぎて詳細がわかりません。漏れた洗浄水をどのようにして回収したのかも説明がありません。

運転の即時中止

事故の説明を

今回の事故は、試験開始後あまりに早く発生し、漏えいした洗浄水に含まれる放射エネルギーが非常に驚かされます。事故発生後、一日半も経過しての発表では、もしもガス性の放射能漏れが発生した場合など住民避難に間に合いません。原燃は運転を中止して、事態の顛末を報告するべきです。

核燃の村六ヶ所に生きるひとびと 鎌仲ひとみ監督作品
六ヶ所村ラプソディー
上映に向けて試写会開催



六ヶ所工場ホームページ環境モニター」の表示改善を要求

大阪の市民団体「美浜の会」の提唱により、「岩手の会」も名を連ねて、日本原燃と青森県に対し「再処理アクティプ試験の情報」データの公表様式改善について「申し入れを行う事になりました。」

日本原燃ホームページは公表様式などに不備が多く、実態がつかめません。改善要求の主な内容は次の点です。
土曜 白曜にも公表すること 排気筒の測定データを「cpm」(1分間の放射線計測数)から「Bq」(ベクレル)に直すこと、管理目標は放射エネルギーをあらわす「ベクレル」なのに

「ハクシャ」で放射能の体内被曝のおそろしさを描いた鎌仲ひとみ監督が、「核燃の大地」、青森県六ヶ所村に長期取材し、ドキュメンタリー映画「六ヶ所村ラプソディー」を完成させました。鎌仲監督は全国から核廃棄物が集まってくる六ヶ所に生きるということは、くらしの根っこに核があることを日々つきつけられながら生きることにほかならないと語っています。

日本各地で上映会がはじまっています。

一分間の放射線計測数であるcpmのみでは係数も不明であり不合理である。グラフの目盛りの単位が大きすぎて変動がわからない。現在の二百分の一は必要。液体の放出量についてトリチウム「T素」、核種など、放出の度に「放出時間」「量」「濃度」も公表すべきである、など十数項目。

映画上映に向けて盛岡でも四月十一日約二〇人、陸前高田では十二日約三〇人が集まり、試写会を行いました。

ウラン試験が始まった再処理工場の地元である六ヶ所村で生活する農業者や漁業者、クリーニング店、日本原燃従業員などいろいろな立場の人々へのインタビューを重ねた映画です。情報の少ない六ヶ所村の一断面を知り、再処理工場について深く考える素材になっています。

京大原子炉実験所へ測定試料としてワカメを送付

「豊かな三陸の海を守る会」では、田老海岸のワカメを採取して京都大学原子炉実験所に送り、その放射能測定を依頼しました。アクティプ試験前の測定値を記録にとどめ、再処理工場を監視する資料とするためです。尚 海水も採取し、市民団体「原子力資料室」に送りました。

なるとして、実行委員会を立ち上げ、上映会を開催することとなりました。盛岡では六月をめぐりに計画が進められています。

簡易放射線量計測器」の活用始まる



「豊かな三陸の海を守る会」では「簡易放射線量計測器」を活用して、海岸の放射線量の計測を始めました。岩手の会「会員の所有する「測定器」は写真のように、子どもの弁当箱位です。なれば誰でも使えます。計測運動に参加しましょう。」